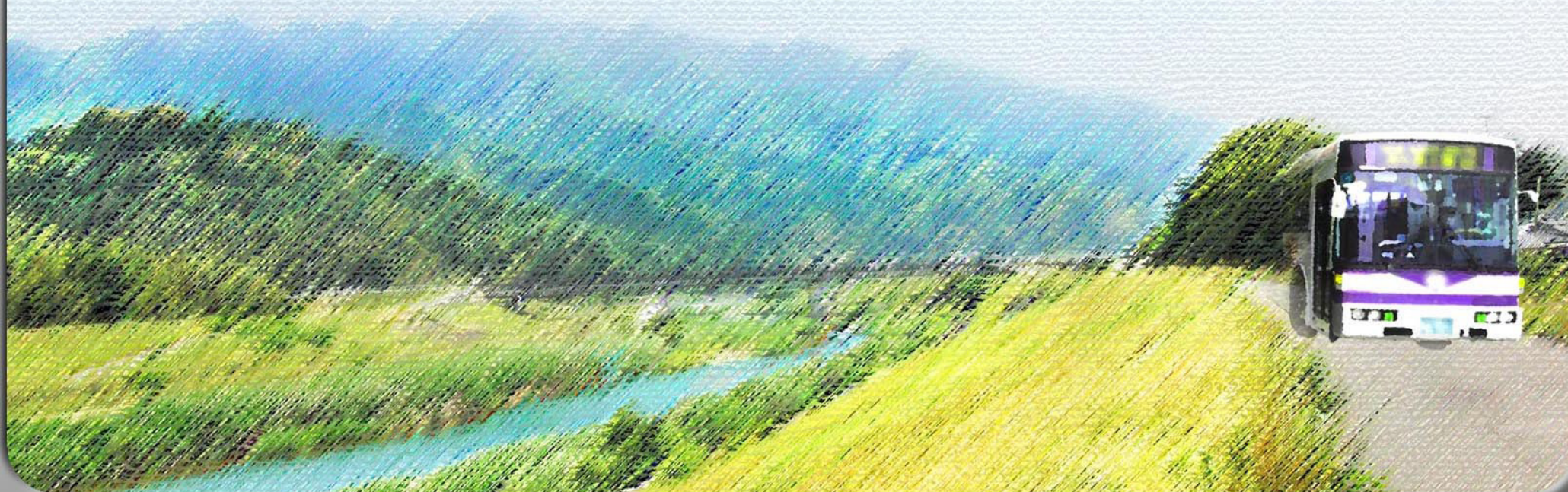


★ 大分合同新聞社

第 11 回

バスを降りたら

- 41 大分市営球技場 …… 出入り自由、親しみ深く
- 42 教尊寺 …… 江戸中～後期の建造物群
- 43 寒田の百本桜 …… 運動6年…1.3キロの並木に
- 44 後藤体器 …… 子どもに温かい贈り物





ラグビー・サッカー場として“再生”した市営球技場

41 大分市営球技場

(二〇〇五年三月二十日)

出入り自由、親しみ深く

大分市新春日町の市営球技場。西側入り口の門柱やテニスコートスタンドには「国体記念事業 オリンピック記念事業 1966」のプレートが取り付けられている。

「市営球技場」は通称。テニスコートや相撲場などを含めた総称は、市の条例で「大分総合運動公園」となっている。その中に「駄ノ原ラグビー・サッカー場」「テニスコート」「相撲場」「運動場」などがある。二〇〇三年度は計約十二万六千人が利用した。

球技場は旧陸軍第四七連隊の跡地を一九五〇年、市営陸上競技場として建設したのが前身。六五年、大分国体のメイン会場として大分川のほとりに現在の市営陸上競技場が造られたため、六六年三月にラグビー・サッカー場として、あらためて整備した。県内のラグーマンなら一度はプレーしたことのあるグラウンドだろう。

周囲には大分西高校、王子中学校、大分大学付属小、中、養護学校と学校が多く、県立図書館もある文



【メモ】最寄りのバス停は大分交通の「市営グラウンド前」。大分駅前から県立図書館行きなどで10分ほど。ラグビー・サッカー場、テニスコート、相撲場、運動場の利用は有料。それ以外は自由に利用できる。

教地区。夕方には下校途中のひとときをスタンドで過ごす子どもや高校生の姿も。

出入りが自由な公園でもあり、朝は日が昇る前から、夜は午後十時すぎまで近くの人たちがジョギング、ウォーキングを楽しんでいる。夕方、スポーツウエアで歩いていた新春日町の田仲睦雄さん（66）は「歩かないと、その日、何かをし忘れたよ
うな気分になります」と話した。

七十歳と六十六歳の夫婦が管理人として敷地内にある事務所に住んでいる。

相撲場のトイレで夜を明かしたり、無断でラグビー場を使ったりとマナーの面で問題も起こっている。

「たくさんの人が利用する公園ですから、お互いに気持ちよく使ってもらいたい」

まもなく桜の季節。球技場のグラウンドを囲む二十数本の桜がつぼみを膨らませている。ことしも、見事に咲き誇る桜を目当てに多くの市民が訪れることだろう。



江戸期の立派な伽藍を構える教尊寺

42 教尊寺

江戸中～後期の建造物群

(二〇〇五年三月二十七日)

大分市本神崎の旧国道から北側の別府湾に向かうと、江戸時代の立派な伽藍（がらん）を構えた風格ある建物の数々。「柱や基礎がしっかりしていて、修復の際も手直しの必要がないほどでした。当時の職人の技は大したもの」。第十三代の藤音浄明住職（54）が本堂を指して話した。



【メモ】最寄りのバス停は大分バスの「神崎」。大分バス本社前5番乗り場から、佐賀関行きなどで約50分。寺はバス停から徒歩約10分。

一六四一（寛永十八）年、浄土真宗本願寺派の寺院として開創。百五十年後に再建された本堂をはじめ、江戸中期から後期にかけての建物が現存し、本堂、庫裏、書院、御殿、経蔵、鐘楼、山門の計七棟は一九九九年に県指定有形文化財に選定された。創建には、領主だった肥後細川家が協力。屋根瓦には寺紋の「下がり藤」とともに細川家の「九曜紋」（家紋）が彫られ、参勤交代の際には藩主が休憩所として利用した。当初は書院を使っていたが、「手狭だったため御殿を増築した」という。

中規模の真宗寺院本堂の完成型を示す―とされる本堂の内部には、獅子やハスの花など装飾性に富んだ多彩な彫刻。経蔵内に納められた八角輪蔵は九州最大級とされ、さまざまな彫刻や彩色が施された華やかな仕上げ。藤音住職は「建立年代が古く、京都から運んで組み立てたのでは」と推測する。

江戸時代の様子を今に伝える貴重な歴史的建造物群。「寺院は門徒が集まり、仏様の話を聞く場所。使われなければ意味がない」と藤音住職。活用しながら、大切に守っていく意義を強調した。



桜をいとおしそうに見上げる新貝さん（右）と有松さん

43 寒田の百本桜

（二〇〇五年四月三日）

運動6年：1.3キロの並木に

四月。フジで有名な大分市寒田の西寒多神社周辺に、本格的に春の気配が漂い始めた。神社のそばを流れる寒田川のせせらぎと穏やかな日の光、ウグイスのさえざり、そして「ふるさと」の昔の風景を取り戻そう」と、川沿いに住民らが植えた桜が、もうすぐ見ごろを迎える。

昭和初期、川沿いには桜並木があり、春になると辺りをピンク色に彩っていた。しかし、水害や病害、河川工事などの影響で減り、当時の桜は数本しか残っていない。

一九九九年、近くの寒田小学校の児童と地元自治会、県大分



【メモ】西寒多神社の最寄りのバス停は、大分バスの「ふじが丘南」。歩いて15分ほどで着く。
JR大分駅前から、ふじが丘行きに乗って約30分。

土木事務所が協力し、川沿いにソメイヨシノ四十本を植えた。その後、住民は「百本を目指そう」と植え続け、今では百二十本ほどに。約1.3キロの桜並木ができています。
近くに住む新貝一さん（75）ら住民が下刈りをしたり、肥料をやったりしながら、手塩にかけて育ててきた。植えた当時は高さ三メートルにも満たなかった若木はすくすくと成長し、今では七メートル近くの木も。幹もしっかりした。「後は順調に大きくなってくれるだけ」と新貝さん。

飼い犬と散歩をしている人や、友達と遊びに行く途中の子ども、神社にお参りに行く

夫婦―。

川沿いを歩く人たちは立派に成長した桜の木を見上げ、春のひとときを楽しんでいる。

「毎年きれいな桜が咲いて、子どもたちの喜ぶ姿を見るのがうれしい」と顔をほころばせる新貝さん。

神社総代の有松克忠さん（70）は「由緒ある神社をはじめ、地域に残る歴史と文化、自然を残していきたいですね」。



後藤芳正社長と大在西小にも設置された「トンネルスライダー」

44 後藤体器

(二〇〇五年四月十日)

子どもに温かい贈り物

緩やかな丘の上に建ち誇る子どもたちの城。ユニークな形と、胸弾む色使いの遊具が、子どもの心を優しく包み込む。手掛けた遊具を眺めたとき、二代目・後藤芳正さん(52)の顔が一層ほころんだ。

戦前、全国から視察団が訪れるほど、村を挙げて体育教育が盛んだった大分市の大在地区。しかし、戦時中に軍が鉄を接收し、主立った体育施設はほとんど残らなかった。当時、機械工だった父親の建寿さん(78) 〓 現在、同社会長 〓 に地域の人々が「体育機器を製造してほしい」と要望。一九四七年、地域のプライドと伝統を胸に「後藤製作所」が開業した。

<http://www.pepland.co.jp/>



【メモ】最寄りのバス停は大分バスの「角子原」。8日に開校した大在西小学校の遊具も手掛けた。

学校の体育用具の設計や製造のほか、現在は公園の遊具も主流。「揺れる、回転する、跳ねる」。さまざまな感覚を全身で感じ、適応する力を養うのは遊具にしかできない。子どももの脳や体を形成する上で、大きな意味を持っている」と芳正さん。

いくつかの遊具を組み合わせたコンビネーション遊具を「ペップブランド」と名付け、二〇〇一年に商標登録した。ペップブランドは地域や景観に合うデザイン性に優れており、大分市の佐野植物公園や津久見市の津久見港わんぱく広場などにも設置された。リサイクル可能なポリエチレン樹脂にカーボンを混ぜ、静電気を抑える円柱形の滑り台「トンネルスライダー」などを開発した。大在の北公園のペップブランドは、一九九九年度のグッドデザイン賞（日本産業デザイン振興会主催）を得た。

芳正さんは「全国規模のメーカーとの競争があるからこそアイデアが生まれる。自社ブランドの確立を目指し、失敗から改善、改良を積み重ねた」。

デザイナー、技術者など二十二人の社員が子どもの成長を願って、大きな温かい贈り物を造り続けている。

■オオイトデジタルブックとは

オオイトデジタルブックは、大分合同新聞社と学校法人別府大学が、大分の文化振興の一助となることを願って立ち上げたインターネット活用プロジェクト「NAN-NAN (なんなん)」の一環です。

NAN-NAN では、大分の文化と歴史を伝承していくうえで重要な、さまざまな文書や資料をデジタル化して公開します。そして、読者からの指摘・

追加情報を受けながら逐次、改訂して充実発展を図っていきたいと願っています。情報があれば、ぜひ NAN-NAN 事務局にお寄せください。

NAN-NAN では、この「バスを降りたら」以外にもデジタルブック等をホームページで公開しています。インターネットに接続のうえ下のボタンをクリックすると、ホームページが立ち上がります。まずは、クリック!!!

大分合同新聞社



別府大学

デジタル版「バスを降りたら」 第 11 回 ● 「大分市営球技場」ほか

編集 大分合同新聞社
初出掲載媒体 大分合同新聞社 (2004 年 5 月 23 日～2006 年 4 月 2 日)

《デジタル版》
2009 年 8 月 28 日初版発行

編集 大分合同新聞社
制作 別府大学メディア教育・研究センター 地域連携部 / 川村研究室
発行 NAN-NAN 事務局
(〒 870-8605 大分市府内町 3-9-15 大分合同新聞社 総合企画部内)

© 大分合同新聞社

●デジタル版「バスを降りたら」について

「バスを降りたら」は、大分合同新聞社が 2004 年 5 月 23 日から 2006 年 4 月 2 日まで同紙朝刊に不定期連載した記事。大分市内各地のバス停ごとに、その近くに暮らす人々や自然、歴史などを紹介した。今回、デジタルブックとして再構成し、公開する。登場人物の年齢をはじめ文中の記述内容は、新聞連載時のもの。

NAN-NAN 事務局